



## 浦添市とは

浦添市は沖縄本島南部に位置し、市域の東側は丘陵地で西側に向かって緩やかに傾斜し海岸へ続いています。面積は約19km<sup>2</sup>、人口は約11万4千人(平成27年1月)を数えます。

浦添では約6,600年前の土器が見つかっており、この頃までには浦添で人が活動していたことがわかります。沖縄本島が山北、中山、山南の三つの勢力に分かれていた13~14世紀には中山の都があったといわれ、「津々浦々を襲う(支配する)」が浦襲【うらおそい】となり、浦添【うらそえ】の語源とされます。



国指定史跡 浦添城跡 うらそえじょうあと



13世紀末に造られたグスクで、中山（沖縄本島中部）を勢力下にくく支配者の拠点と考えられています。14世紀後半から15世紀前半ころには大規模なグスクになりました。政権拠点が首里城に移った後の16世紀には第二尚氏第三代の尚真王の長男である尚維衡が住み、それ以降は彼の子孫が屋敷を構えていたようです。しかし1609年の薩摩侵入の時に焼け落ちてしまいました。

1945年の沖縄戦ではグスクがある丘陵は前田高地と呼ばれ日本軍の陣地となつたことから激戦地となり、残っていた石積み城壁などは失われました。

復元された石積み城壁



## 王陵・浦添ようどれと グスクぶらりルート

初期の中山王陵である浦添ようどれと、国指定史跡・浦添グスクの復元された城壁をしながらあるルートです。

本ルートを逆から回るルートや仲間集落(P19~20)を組み合わせたルートもおすすめです。



### ディーグガマ でいーぐがま

デイゴの木があった洞穴（ガマ）が名前の由来です。『琉球国由来記』の「渡嘉敷嶽」という御嶽と考えられています。



### 浦添城の前の碑

うらそえじょうのまえのひ

尚寧王が1597年に首里と浦添城を結ぶ道を整備したときの竣工記念碑です。



### 県営浦添大公園

#### 南エントランス管理事務所

浦添グスクの南側入口にある県営公園の施設です。同施設の多目的室には、浦添グスクを紹介するパネルや、グスクの模型などの展示コーナーを設けています。入館は無料です。

□所在地 仲間2-53

□開館時間 午前9時～午後5時

□休館日 月曜日（祝日の場合は開館）・年末年始



## 浦添ようどれ うらそえようどれ

県指定文化財（彫刻）

## 浦添ようどれ石厨子

うらそえようどれいしづし



浦添城跡内にある王の墓で、別名を「極楽陵」といいます。13世紀に造られた英祖王（在位1260～1299）の墓といわれており、1620年に尚寧王（在位1589～1620）により改修されました。

崖にある二つの横穴を石積みで塞いで墓室にした墓で、さらに周囲を石積みで囲っています。墓室は西側（向かって右）の西室が英祖王陵といわれ、東側の東室に尚寧王と彼の一族が葬られています。墓室には骨を納めるための石製の厨子（P. 8）が安置されています。

「ようどれ」とは琉球の言葉で「夕凧」を意味しており、その静かで穏やかなイメージから「墓」の意味に用いられているといわれています。

墓室内部は非公開ですが、「浦添グスク・ようどれ館」（P.32）に西室内部を再現しています。



浦添ようどれには厨子と呼ばれる、洗骨した骨を納める蔵骨器が東西二つの墓室に全部で10基ありますが、このうち西室の3基と東室の1基が県の文化財に指定されています。

この4基は中国福建省産出の輝緑岩で作られると推定されています。瓦葺きの建物を模した形で、仏像や蓮華、牡丹、毬で遊ぶ獅子、馬や鹿などが浮き彫りで彫刻されています。輝緑岩製の石厨子としては古い形をしており、特に仏像は沖縄に現存する最古級のものです。

石厨子は非公開ですが精巧なレプリカ（模型）が「浦添グスク・ようどれ館」（P.32）で見学できます。

# 中頭方西海道及び普天満参詣道

## 中頭方西海道

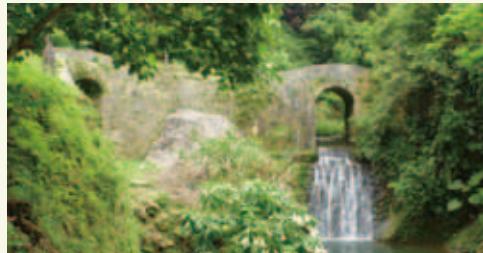
琉球王国時代に首里王府からの命令伝達や租税の上納に使われた宿道と呼ばれる幹線道で、公事道ともいいます。

中頭方西海道は首里城を起点として浦添を経由して読谷に至るルートで、さらに北の恩納や国頭方面をつなぐ主要道路でした。

1597年建立の「浦添城の前の碑」によれば、尚寧王の命令により首里平良と浦添城をつなぐ道を拡張し平良橋を木橋から石橋に架け替え、道に

石畳を敷く国家の大土木工事を行ったことが分かります。

現在は安波茶橋とその周辺に石畳道が残されています。橋の下流側には、赤い皿(椀)で水をくんで国王に差し上げたと伝えられる赤皿ガーがあります。



安波茶橋は石造のアーチ橋で、小湾川に架けられた南橋と、支流のアブチ川に架けられた北橋があります。



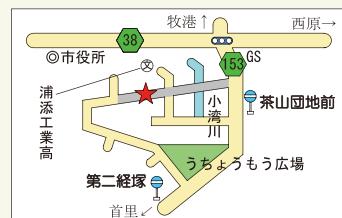
なかがみほうせいかいどうおよびふてんまさんけいみち

## 普天満参詣道



中頭方西海道から分かれて宜野湾間切を経て金武へ通じる道で、宜野湾間切が新設された17世紀後半に整備されたと考えられます。毎年、国王はこの道を通って普天満宮に参詣しました。

牧港川の流れる谷間に長さ約200mにわたって幅3mの石畠道が残っています。このあたりの道は馬が転ぶほど勾配が急なことから「馬転ばし」、「馬ドゥーケーラシ」と呼ばれています。川に架かる橋は大正・昭和時代に改築されました。



所在地 | 安波茶、経塚

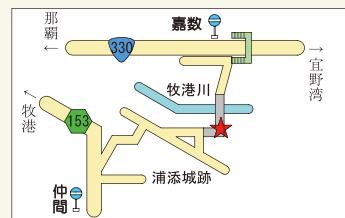
アクセス | バス番号91, 191系統「茶山団地前」徒歩2分



所在地 | 当山

アクセス | バス番号55系統「仲間」下車徒歩12分

バス番号21, 88, 90, 98系統「嘉数」下車徒歩9分



# 尚寧王の道をたどる 歴史の道ぶらりルート

約400年前に尚寧王によって整備された浦添と首里を結ぶ琉球王国時代の街道であるルートです。

国の史跡である中頭方西海道を含み、街道沿いに残る多くの文化財をみながら歩くことができます。



浦添グスクの南側斜面では、石畳道を復元整備しています。



道路や歩道の一部に、目印として石畳の表示をしています。



ぶらりルート

■■■ 本来の尚寧王の道ルート  
(※現在は歩けません)

## 各ポイントへの所要時間

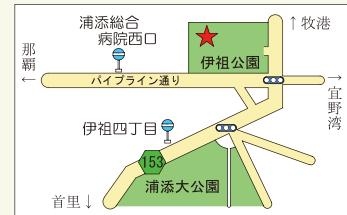


※所要時間は徒歩時の目安で個人差があります。

## 県指定史跡 伊祖城跡 いそじょうあと



伝承では英祖王父祖代々の居城で、英祖王もここで生まれたといわれています。所々に切石積みや野面積みの石積みが残っています。発掘調査が行われていないため詳しいことは分かっていませんが、グスク土器、中国製陶磁器などが発見されています。



所在地 | 伊祖 3 丁目48番  
(伊祖公園内)

アクセス | バス番号55系統「伊祖四丁目」下車徒歩8分  
バス番号99系統「浦添総合病院西口」下車徒歩10分

## 県指定文化財（建造物） 伊祖の高御墓 いそのたかうはか

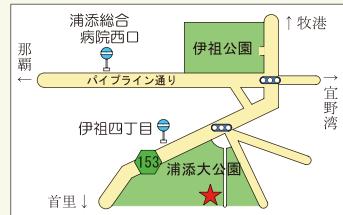


崖の中腹の洞穴を利用し、その前面を石積みで塞いだ墓です。  
墓口が広い古い形式の墓で、英祖王の父・惠祖世主と3人の按司（地域の支配者）が葬られているといわれています。

近くに浦添貝塚があり、古代にはこの洞穴が住居であったと考えられています。

所在地 | 伊祖 5 丁目（浦添大公園内）

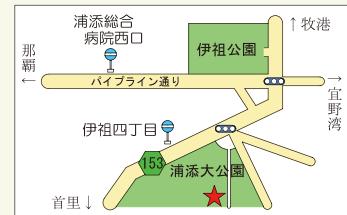
アクセス | バス番号55系統「伊祖四丁目」下車徒歩5分  
バス番号99系統「浦添総合病院西口」下車徒歩10分



## 県指定史跡 浦添貝塚 うらそえかいづか



縄文時代後期から晩期にかけての遺跡で、およそ4000年前の土器や石器などが出土しました。奄美諸島でよくみられるタイプの土器がたくさん出土したほか、主に南九州で見つかっている市来式土器が発見されており、沖縄と九州の交流の様子がうかがわれます。



所在地 | 伊祖 5 丁目（浦添大公園内）

アクセス | バス番号55系統「伊祖四丁目」下車徒歩5分  
バス番号99系統「浦添総合病院西口」下車徒歩10分

市指定史跡

## 浦添御殿の墓

うらそえうどうんのはか

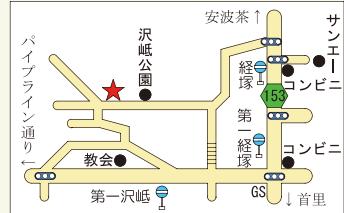


浦添御殿は、第二尚氏第14代国王・尚穆王（在位1752～1794）の次男・浦添王子朝央を元祖とする家系で、近世琉球を代表する政治家や文化人を輩出した由緒ある家系でした。市内でも最大級のこの墓は18世紀末に造られたと推定され、巧みな石積みや墓正面に使われた巨大な石が浦添御殿の栄華を今に伝えています。

所在地 | 沢岐（沢岐公園となり）

アクセス | バス番号91, 191系統「経塚」下車徒歩15分

バス番号87系統「第一沢岐」下車徒歩7分



市指定史跡

## 玉城朝薰の墓（邊土名家の墓）

たまぐすくちょうくんのはか（へんとなけのはか）



朝薰作の組踊『執心鐘入』の一場面。『二童敵討』『銘苅子』『女物狂』『孝行の巻』と合わせ朝薰の創作した組踊は「朝薫の五番」とよばれ高く評価されています。

玉城朝薰（1684～1734）は琉球独特の歌舞劇『組踊』の創始者です。彼は中国からの冊封使を歓待するために踊奉行となって組踊を生みだしました。

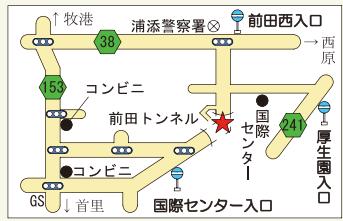
この墓は庭の石積みなどが曲線を描くのが特徴的で、龜甲墓が成立していく17世紀後半から18世紀前半に作られたと考えられます。

所在地 | 前田（前田トンネル上）

アクセス | バス番号25, 33, 97系統「厚生園入口」下車徒歩12分

バス番号87系統「国際センター入口」下車徒歩9分

バス番号56系統「前田西入口」下車徒歩14分



## 市指定史跡 仲間の拝所群 なかまのはいしょぐん

字仲間の拝所は12ヶ所あり、集落内と浦添城跡内に点在しています。この内、文化財に指定されている4ヶ所の拝所は集落内にあり、字仲間の人々の生活や信仰において心のより所です。



### 仲間樋川 なかまふいーじやー

日常の飲料水としての利用を始め、産水・正月の若水などをくむ場所でした。『琉球国旧記』(1731年編纂)にはすでに樋が掛けられていたことが記されています。昭和10年(1935)には大規模な改修工事が行われ水タンクが設置されました。タンクからあふれでた水は洗濯などをする「平場」を経て、農具や馬を洗う「ウマアミシ」まで流れていきました。

### 仲間火ヌ神 なかまひぬかん

近世の仲間村の「地頭火ヌ神」といわれています。地頭は琉球王国時代に間切や村を領地にした士族で、その就任や退任のときに拝んだのが地頭火ヌ神です。



### クバサーカ御嶽 くばさーぬうたき

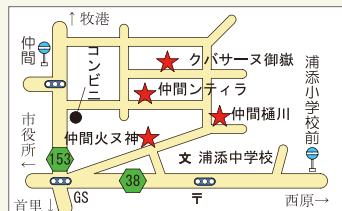
仲間集落発祥の地と伝えられています。『琉球国由来記』(1713年編纂)には「コバシタ嶽」と記されていますが、コバシタとはクバの木の下という意味です。

一帯はウガングワーヤマとも呼ばれ、戦前は大木がうっそと茂っていました。クバサーカ御嶽には石で積み封じた神墓があつたそうです。



### 仲間ンティラ なかまんていら

『琉球国由来記』(1713年編纂)に記されている「長堂之嶽」が仲間ンティラにあたると考えられています。ティラ・テラと呼ばれる拝所の多くは洞穴になっており、ムラの神が鎮座しているところと考えられています。戦前の祠は石積みの壁に赤瓦葺きだったようですが沖縄戦で失われました。



所在地 | 仲間2丁目

アクセス | バス番号55系統「仲間」下車徒歩5分

バス番号56系統「浦添小学校前」下車徒歩5分

**城下まちを歩く  
仲間集落ぶらりルート**

MAP DIRECTIONS: N (North), S (South), E (East), W (West)

ROUTE DIRECTIONS: ぶらりルート (Walking Route)

POINTS OF INTEREST:

- 浦添グスク・ようどれ館 (P.32)
- クバサヌ御嶽 (P.18)
- 仲間樋川 (P.17)
- 仲間火又神 (P.17)
- 仲間シティラ (P.18)
- 仲間樋川口 (P.17)
- 浦添中学校
- 浦添小学校
- 浦添駅 (JR GS)
- 郵便局
- 浦添間切番所跡
- 龍福寺跡
- 階段
- ×交番
- 西原へ▶
- 牧港へ
- ウマチ毛
- 運動公園へ
- 安波茶磯川へ (P.22)
- 根殿内
- 仲間公民館
- 仲間城跡 (P.4)
- 石畠道
- なまくしばる仲間後原遺跡
- 浦添ようどれへ (P.7)

TIME TO EACH POINT (Walking time):

浦添グスク・ようどれ館 (P.32)	4分 (210m)
クバサヌ御嶽 (P.18)	3分 (140m)
仲間樋川 (P.17)	3分 (140m)
仲間火又神 (P.17)	5分 (250m)
おもろの碑 (P.30)	6分 (300m)
南エントランス管理事務所 (P.6)	6分 (280m)
石畠道	7分 (390m)
浦添グスク・ようどれ館 (P.32)	

TOTAL TIME: 全部回ると60~70分ほど(約1.7km)

NOTE: 所要時間は徒歩時の目安で個人差があります。

首里城以前の王統の居城である浦添グスクに隣接する仲間集落を歩くルートです。

浦添市の指定文化財である挾所や井戸などをめぐりながら歩くことができます。



スタート地点の駐車場下にはグスク時代の遺跡(仲間後原遺跡)が埋まっています。



仲間集落ではおもろの碑をはじめ、多くの文化財に説明板がありますので理解を深めながら歩くことができます。

市指定史跡

## 経塚の碑 きょうづかのひ



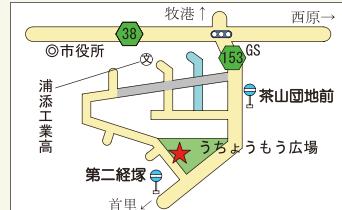
昔、ここに巣くう妖怪が道行く人々をたぶらかしていました。  
16世紀のはじめ、日秀上人が金剛経というお経をかいた小石を埋め、その上に「金剛嶺」と刻んだ石碑を建て妖怪を鎮めたと伝えられています。また、大地震があってもこの場所は揺れなかつたとされ、地震の際には「チョウチカチカ」「チョウチカ、チョウチカ」(チョウチカ=経塚)と唱えると地震がおさまると信じられるようになりました。



所在地 | 経塚 1丁目 2番

(うちょうもう広場内)

アクセス | バス番号91, 191系統「第二経塚」下車徒歩3分

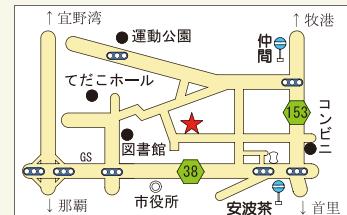


市指定史跡

## 安波茶樋川 あはぢやふいーじやー



『琉球国旧記』(1731年編纂)に「安波茶樋川」の記述があることから18世紀の中頃には存在していたと推定されます。琉球石灰岩で作られた樋が当時のまま残されています。



所在地 | 安波茶 2丁目 5番

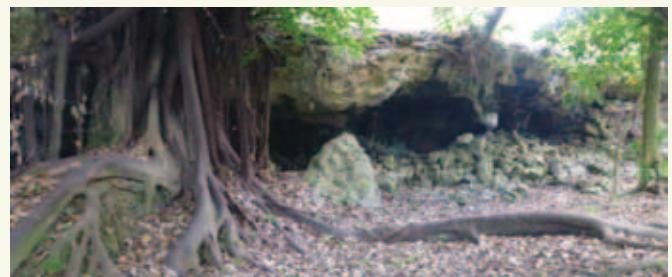
アクセス | バス番号55系統「仲間」下車徒歩6分

バス番号55, 56, 91, 191系統「安波茶」下車徒歩6分

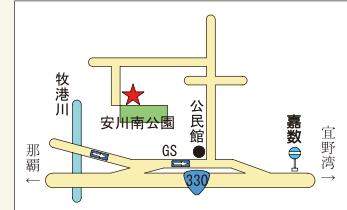
市指定史跡

## チヂフチャ一洞穴遺跡

ちぢふちゃーどうけついせき



全長がおよそ110mある鍾乳洞で、1500年～800年前の土器や貝殻などが出土しており古代の人々のすみかとして利用されていたようです。沖縄戦では避難壕になりました。



所在地 | 牧港 3丁目36番

アクセス | バス番号21, 88, 90, 98系統「嘉数」下車徒歩9分

市指定史跡

## 牧港テラブのガマ

まきみなと  
てらぶのがま



地元ではティランガマと呼ばれる琉球石灰岩の自然洞穴です。内部は拝所で、洞穴の外の前庭は牧港の殿(祭祀場)と推測されています。

伝説では12世紀後半に琉球に来た源為朝は、大里按司の妹と結婚し男の子が生まれます。やがて為朝は浦添の港から船に乗り帰郷しますが、残された妻と子はこのガマで為朝の再来を待ちわびたともいわれています。それ以来この地は「待港」と呼ばれ、転じて「牧港」になったということです。男の子の名前を尊敦といい、後に王位に就き舜天と呼ばれます。



所在地 | 牧港5丁目7番

アクセス | バス番号20, 23, 55, 99, 223系統ほか「牧港」下車徒歩3分

市指定史跡

## 西原東ガ一

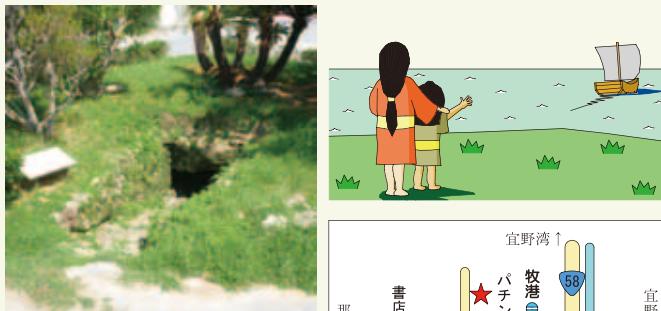
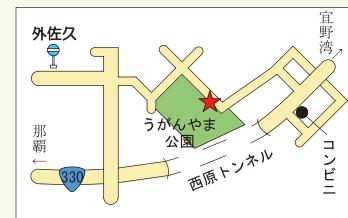
にしらあがりがー



約600年前からあるとされる井戸で、現在の石積みは300年前の改築といわれています。飲料水のほか、産水や正月の若水などに利用され、拝所となっています。

所在地 | 西原4丁目36番

アクセス | バス番号56系統「外佐久」下車徒歩5分



市指定史跡

## 西原洗濯ガ一

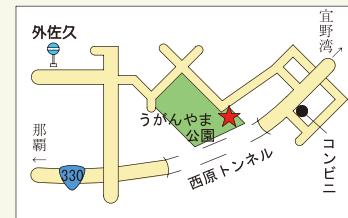
にしらせんたく  
がー



昭和2年(1927)に新築された井戸で、衣類の洗濯、農具や野菜の洗い、水浴びなどに利用されました。

所在地 | 西原4丁目36番

アクセス | バス番号56系統「外佐久」下車徒歩5分

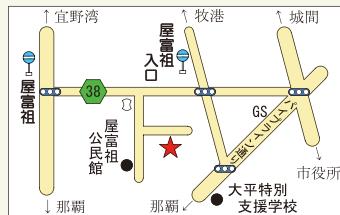


## 市指定天然記念物 屋富祖の御願所のガジュマル

やふそのうがんじゅのがじゅまる



ガジュマルは琉球列島から南に分布するクワ科の常緑高木です。この木は屋富祖の殿(祭祀場)に生えているため、戦前は「殿ヌガジュマル」と呼ばれていました。樹齢は少なくとも100年を超えていきます。



所在地 | 屋富祖 2丁目25番

アクセス | バス番号55, 56系統「屋富祖入口」下車徒歩6分

バス番号20, 23, 26, 77, 120, 223系統ほか「屋富祖」下車徒歩8分

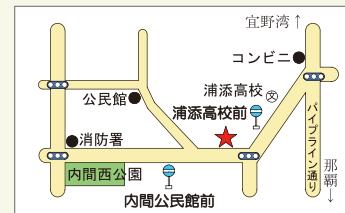
## 市指定天然記念物 内間の大アカギ

うちまのうふあかぎ



アカギはタカトウダイ科に属し、東南アジア、ポリネシア、沖縄等に広く分布する熱帯樹です。

内間の大アカギの樹齢は推定でおよそ400年で、明治の頃から樹木の大きさに変化はないといわれます。



所在地 | 内間 3丁目28番

アクセス | バス番号87系統「内間公民館前」「浦添高校前」下車徒歩2分

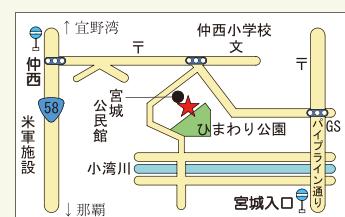
## 市指定天然記念物 宮城の御願山のウスク

みやぎのうがんやまのうすく



ウスク(和名アコウ)はクワ科の半常緑高木で、紀伊半島を北限に琉球列島～東南アジアに分布します。

宮城公民館一帯は、かつては御願山と呼ばれた聖域で、このウスクはかつての御願山をしのばせる唯一のものです。樹齢は100年以上と推測されています。



所在地 | 宮城2-22-3 宮城公民館

アクセス | バス番号55, 56, 99系統「宮城入口」下車徒歩13分

バス番号20, 23, 26, 77, 120, 223系統ほか「仲西」下車徒歩10分

国選択文化財(無形民俗)

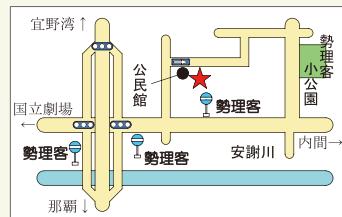
市指定文化財(無形民俗)

## 勢理客の獅子舞

じっちゃんの  
ししまい

ぐしけん

「コーレー具志堅」という人が伝えたとされる獅子舞で、芸が非常に細かく、足の踏み込みが大きく勇壮であるのが特徴です。舞の種類は11種と豊富で、大きくて儀式的な「ジャンメー」、遊戯的な「モーカー」に分けられます。旧暦8月15日に演じられています。



所在地 | 勢理客2-19-20 勢理客公民館

アクセス | バス番号20, 23, 28, 87, 99, 120, 223系統ほか「勢理客」下車徒歩5分

市指定文化財(無形民俗)

## 仲西の獅子舞 なかにしのししまい

伝承では今から約500年前から部落の行事として毎年旧暦7月15日と8月15日に演じられてきました。厄払いと五穀豊穣・子孫繁栄を祈る目的で行われています。雄獅子で頭が大きくて顔の表情がいかめしく、舞が力強いのが特色です。



所在地 | 仲西1-3-11 仲西公民館

アクセス | バス番号20, 23, 28, 120, 223系統ほか「第一仲西」下車徒歩10分

市指定文化財(無形民俗)

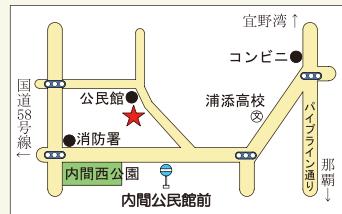
市指定文化財(無形民俗)

## 内間の棒 うちまのぼう

## 内間の獅子舞 うちまのししまい

ちゅ

獅子舞は400年ほど前に茶  
圓々丸によって伝えられた  
といわれ、棒の発祥も同じ頃といわれます。獅子舞は雌獅子で芸が細かく勇壮です。棒は手棒とも呼ばれ勇壮活発な演技です。いつも旧暦8月15日に厄払いと五穀豊穣・子孫繁栄を祈つて行われます。



所在地 | 内間3-15-1 内間公民館

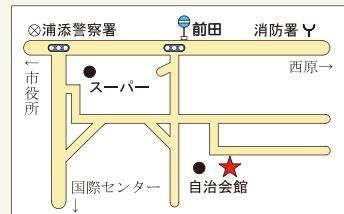
アクセス | バス番号87系統「内間公民館前」下車徒歩1分

市指定文化財(無形民俗)

## 前田の棒 まえだのぼう

ムラの発展と子孫繁栄、豊年満作を祈願して行われています。戦前までは1年おきに旧暦8月に昼間は棒、夕方から夜にかけて村芝居が部落あげての行事として行われていました。

勇壮活発で独特なドラ鐘の打ち方によって演じられます。



所在地 | 前田1-28-7 前田自治会館

アクセス | バス番号56系統「前田」下車徒歩5分



## おもろの碑

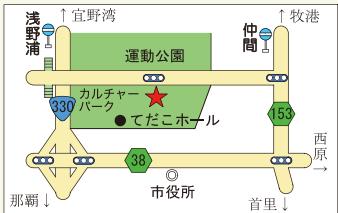
「おもろ」とは神にささげる歌だと考えられています。王府は1531年から1623年にかけておもろを記録し『おもろさうし』にまとめました。昭和・平成にかけて浦添に残りのあるおもろの碑をゆかりのある土地に建てました。

### ①神酒が満ちあふれる豊かな浦添よ

#### 運動公園メインゲート 向かいの碑

アクセス | バス番号55系統「仲間」  
下車徒歩10分

バス番号21, 88, 90, 98, 112  
系統「浅野浦」下車徒歩  
10分

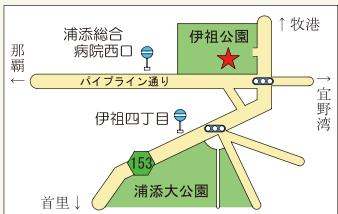


### ②英祖王は夏は神酒、 冬は御酒をもる

#### 伊祖公園の碑

アクセス | バス番号55系統「伊祖四  
丁目」下車徒歩7分

バス番号99系統「浦添総  
合病院西口」下車徒歩7分

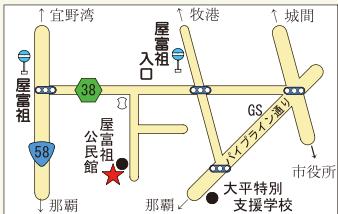


### ③親富祖の大屋子が貢ぎ物をささげる

#### 屋富祖公民館の碑

アクセス | バス番号55, 56系統「屋  
富祖入口」下車徒歩6分

バス番号20, 23, 26, 28, 120,  
223系統ほか「屋富祖」  
下車徒歩8分



### ④アマミキヨがたてた 伊祖グスク

#### 字伊祖・あさやら公園の碑

アクセス | バス番号99系統「伊祖二  
丁目」下車徒歩5分

バス番号21, 90, 98系統ほか  
「浅野浦」下車徒歩7分



### ⑤仲西のすぐれた真人

#### 仲西公民館の碑

アクセス | バス番号20, 23, 26, 28, 120,  
223系統ほか「第一仲西」  
下車徒歩10分



### ⑥城間の長老が 神女たちと

#### 字城間・泉小公園の碑

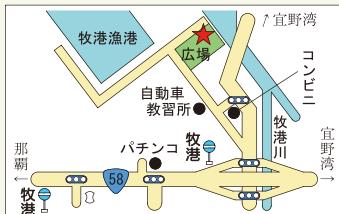
アクセス | バス番号55, 56系統  
「浦城小学校入口」下車  
徒歩2分



### ⑦宝庫のとびらを 開いた察度王

#### 牧港漁港の碑

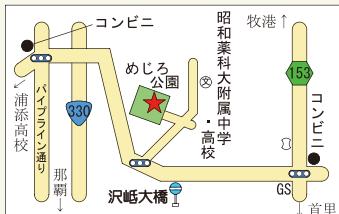
アクセス | バス番号20, 23, 26, 28, 55,  
99, 120, 223系統ほか  
「牧港」下車徒歩13分



### ⑧国中に鳴り響く 沢崎太郎名付け

#### 字沢崎・めじろ公園の碑

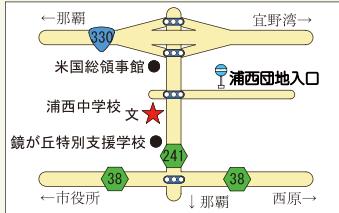
アクセス | バス番号87系統「沢崎  
大橋」下車徒歩6分



### ⑨浦添ぐすくの 王をたたえる

#### 浦西中学校正門前の碑

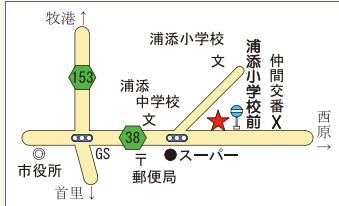
アクセス | バス番号56系統「浦西団  
地入口」下車徒歩5分



### ⑩黄金寄り集まる 根の国浦添

#### 仲間交番前の碑

アクセス | バス番号56系統「浦添  
小学校前」下車すぐ



# 浦添市美術館 うらそえしひじゅつかん

県指定文化財(工芸品)

市指定文化財(工芸品)

市指定文化財(絵画)

琉球漆器 5 件

琉球漆器39件

琉球交易港図屏風ほか 4 件

16世紀から現代までの優れた琉球漆器コレクションを中心には、日本や周辺諸国の漆器を収蔵する漆芸専門の美術館です。常設展以外にも様々なテーマ・内容の企画展を開催しています。



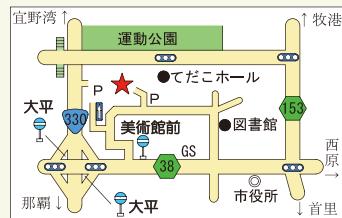
所在地 | 仲間1-9-2

電話 | 098-879-3219

休館日 | 月曜日・年末年始

アクセス | バス番号55, 56, 91, 191系統「美術館前」下車徒歩10分

バス番号21, 88, 90, 98, 112系統「大平」下車徒歩12分

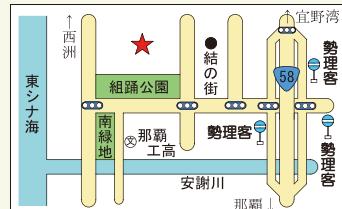


# 国立劇場おきなわ こくりつけげきじょうおきなわ

国重要無形文化財(芸能)

組踊 くみおどり

沖縄の伝統芸能の公演や伝承者の養成、調査・研究の拠点となる施設です。公演鑑賞だけでなく資料展示室（無料）の見学や図書・記録映像の閲覧（映像は有料）ができます。



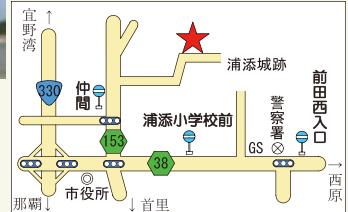
所在地 | 勢理客4-14-1

電話 | 098-871-3311

アクセス | バス番号20, 23, 87, 99, 120, 223系統ほか「勢理客」下車徒歩10分

# 浦添グスク・ようどれ館 うらそえぐすく・ようどれかん

国指定史跡「浦添城跡」のガイダンス施設です。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査での出土品や、戦前のパネルなどを展示しています。また浦添ようどれ西室（英祖王陵）内部を実物大で復元し、県指定文化財の「浦添ようどれの石厨子」(P. 8)のレプリカ（模型）も展示しています。



所在地 | 仲間2-53-1

電話 | 098-874-9345

開館時間 | 午前9時～午後5時

休館日 | 月曜日（祝日の場合は開館）・年末年始

入館料 | 大人（高校生以上）100円・小人（小中学校）50円

## NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会

「うらおそい歴史ガイド友の会」による案内と説明で浦添の文化財をめぐってみませんか？

お問い合わせ

時間 | 9:00～17:00（休：月曜日・年末年始）

電話 | 098-874-9345（浦添グスク・ようどれ館）

料金（目安） | 「浦添城跡他、周辺史跡案内コース（1～5名）

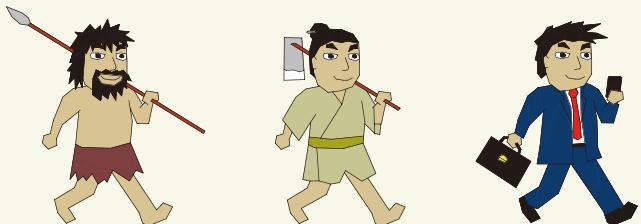
1時間1,500円、2時間3,500円

※料金や参加人数、コース内容等は事前にお問い合わせ下さい。

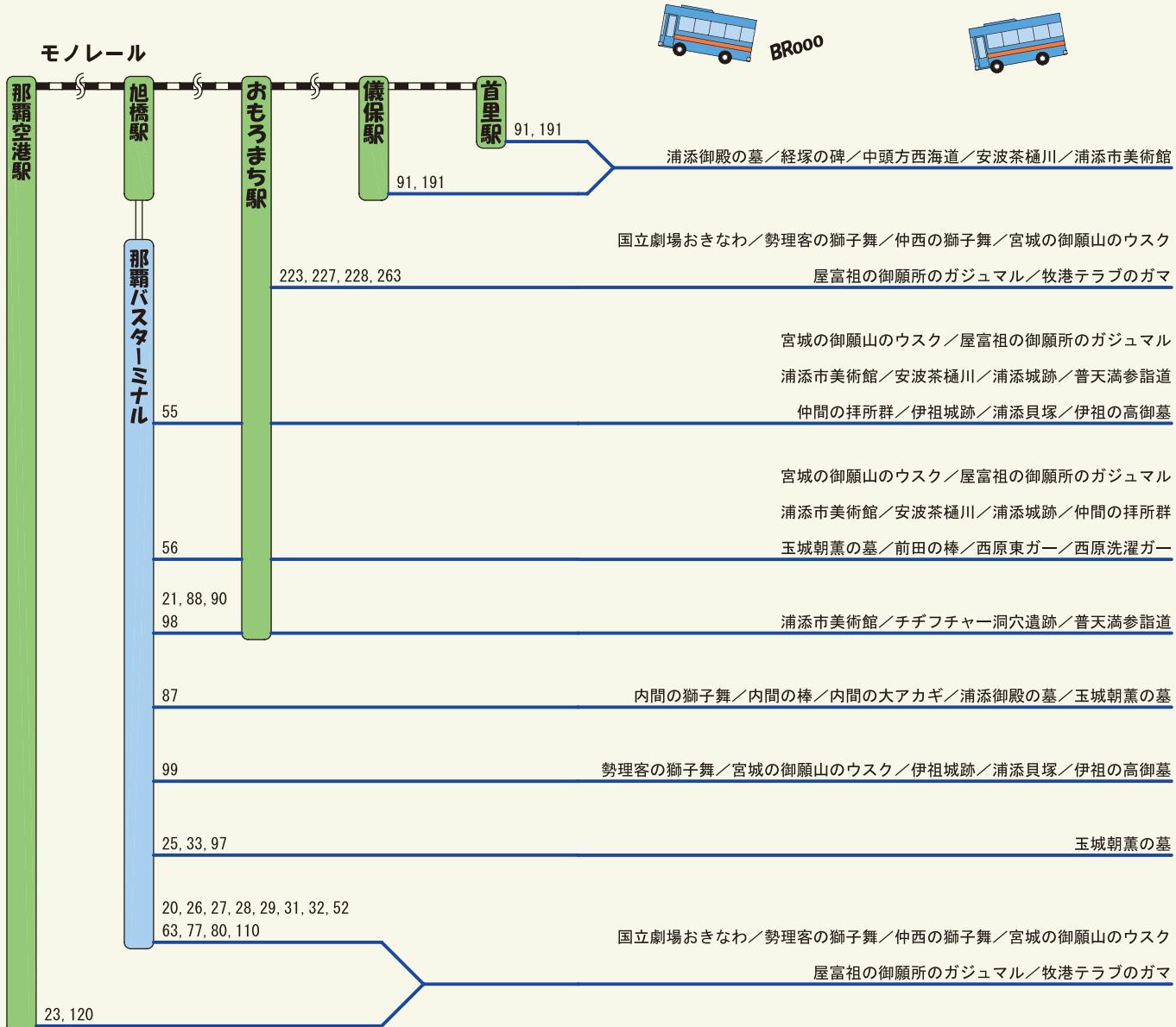
# 浦添の歴史

日本	時代	出来事・遺跡
	縄文時代	【チヂフチャ一洞穴遺跡】 【浦添貝塚】
弥生	弥生～平安時代並行期	【嘉門貝塚】
古墳 ～ 平安		【チヂフチャ一洞穴遺跡】
鎌倉時代	12世紀後半 13世紀初頭 1229 13世紀末～14世紀初頭 13世紀後半	【牧港テラブのガマ】 この頃 【伊祖の高御墓】造営か 英祖、伊祖グスクで誕生【伊祖城跡】 浦添グスク築城【浦添城跡】 【浦添ようどれ】造営 浦添グスクの西に極楽寺創建
室町時代	14世紀末～15世紀前半 1372 1429 16世紀初頭	浦添グスク、規模が大きくなる 中山王察度、中国に朝貢 尚巴志、三山統一 【経塚の碑】建立 尚維衡、浦添グスクに住む
安土・桃山時代	1531 1589 1597	『おもろさうし』編纂開始(～1623年) 浦添出身の尚寧、王位に就く 首里・浦添間の道を整備し、浦添グスクに竣工記念碑を建立 【中頭方西海道】 【浦添城の前の碑】
江戸時代	1609	薩摩侵入、浦添グスクと龍福寺焼ける
近世琉球	1620	浦添ようどれ改修、尚寧没

江戸時代	近世琉球	1644 国王の普天満宮参詣始まる <b>【普天満参詣道】</b>
		1671 間切再編により現在の浦添市域の原形ができる
		1713 『琉球国由来記』に【クバサーヌ御嶽】 【仲間ンティラ】の記載
		1731 『琉球国旧記』に【仲間樋川】【安波茶樋川】【西原東ガー】の記載
		1734 玉城朝薰没、石嶺の一つ墓へ葬る
	明治時代	18世紀末 【浦添御殿の墓】造営
		1805 玉城朝薰洗骨、前田の墓へ移葬 <b>【玉城朝薰の墓】</b>
		1872 琉球藩設置
		1879 沖縄県設置
		1908 浦添間切から浦添村へ
	昭和	1927 【西原洗濯ガー】築造
		1945 沖縄戦により浦添ようどれなど破壊
		1970 浦添村から浦添市へ
	平成	1989 浦添城跡、国の史跡に指定
		2012 中頭方西海道及び普天満参詣道、国の史跡に指定



# 文化財へのバスアクセス



※数字はバスの系統番号（バス会社問わず）

各文化財へのアクセスの詳細は各ページを参照して下さい。

路線バス運行に関する情報はこちら

沖縄県バス協会：電話098-867-7386

Webサイト「バスなび沖縄」[www.busnavi-okinawa.com](http://www.busnavi-okinawa.com)



うらそえ  
**ぶらり浦添**  
歴史のさんぽ道

平成27(2015)年3月発行(第2版)

編集・発行 浦添市教育委員会

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶一丁目1番1号

TEL:098-876-1234